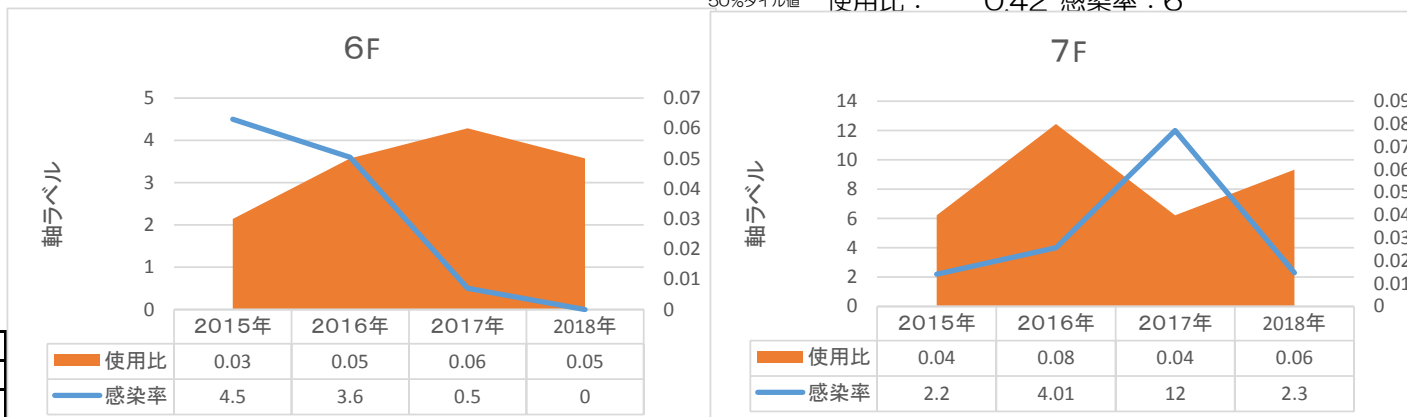


2018年 中心静脈カテーテル関連感染症関連サーベイランス結果年間比較

院内感染対策委員会
2019.1

1. 実施場所：6・7F
2. 実施期間：2011年1月～2017年12月
3. 方法：サーベイランス計画書に基づき、データ収集し標準の診断基準に基づきデータを算出する
4. 計算方法：感染率：感染数/デバイス使用日数×1000 ②デバイス使用比：デバイス使用日数/入院患者延べ数
5. 年間の平均

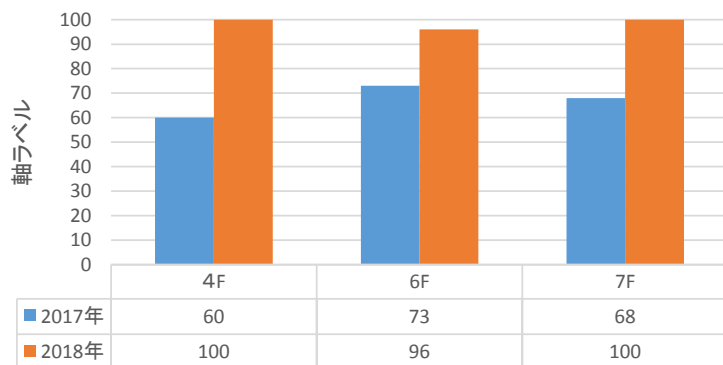
50%タイル値 使用比： 0.42 感染率：6



4F	2018年
感染率	1.6
使用比	0.03

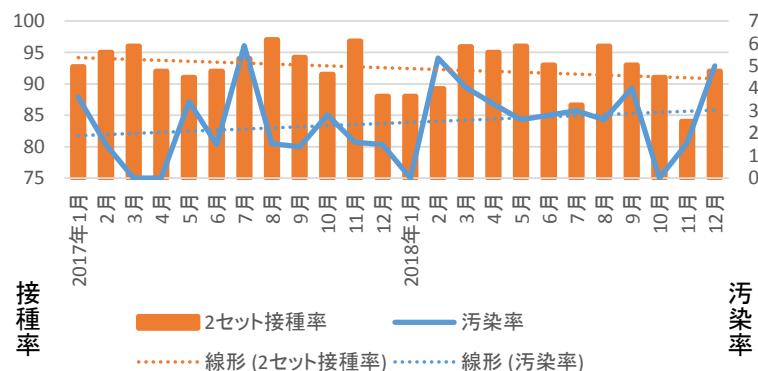
MBPキット使用率

MBPキット使用率



血液培養汚染率と2セット採取率

血液培養汚染率、2セット採取率



評価

感染率は有意に減少している。今後は、MBPキットの使用状況の把握(すべて着用しているか)などバンドルの推奨とその成果をデータで比較していく。4Fデータは2018年から算出し始めた。今後経年的に推移をみていく。汚染率は、偏りがなくすべての部署で発生しているため、合わせてベスプらの実施教育をする。3%以下をめざし早期治療につなげる事ができるように検査精度をあげる。

用語の定義

MBP:マキシマルバリアプリコーション